

登録コード	E4651900	開講年度	2026			
授業科目	美術科指導法演習				担当教員	大島 賢一
英文授業名	Seminar in Teaching Methods of Art Education				副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・1時限	対象学生
講義室	教育N303講義室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				美術科教育の意義と目的について正しく理解する。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				美術科教育を実施するための知識及び技能を習得する。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	・美術科の授業を作るにあたっての知識、学習指導要領の留意点について理解を深める。 ・グループワークによる教材開発を行い、他者と協力しながら授業開発を行う経験をする。 ・指導案を作成し模擬授業を行う演習と、その後のディスカッションを通して、実践的に美術教育についての理解を深める。					
(5)授業計画	第1回：ガイダンス 学習指導要領の確認と学習指導について 第2回：講義1 美術教育の目的とその意義について 第3回：講義2 美術科の授業と学習指導案の作成 第4回：教材開発実践(1)グループ決めおよび課題設定 第5回：教材開発実践(2)グループワークによる授業開発 第6回：模擬授業...絵 第7回：模擬授業...彫刻 第8回：模擬授業...デザイン 第9回：模擬授業...工芸 第10回：模擬授業...鑑賞 第11回：模擬授業...言語活動を伴う授業 第12回：模擬授業...共同制作を伴う授業 第13回：模擬授業...映像メディアを利用した授業 第14回：模擬授業...効果的なスケッチの学習を取り入れた授業、授業アンケート 教育実習等に関わる補講については、授業において指示する。					
(6)成績評価の方法	(1)模擬授業の実施とその検討のための討論への参加 40% (2)グループワークによる教材開発と発表 60% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(7)成績評価の基準	実施した模擬授業について、授業として成立していれば「水準にある」。よく計画されていれば「やや上にある」。意欲的題材であれば「かなり上にある」。授業として申し分ないレベルであれば、「卓越している」。					
(8)事前事後学習の内容	模擬授業の実施にあたっては、グループでの討論、教材研究などの事前準備が必要となる。また、実施後についても、グループで振り返り、考察を行い、レポート等にまとめる。					
(9)履修上の注意	美術科指導法基礎を履修していることが望まれる。					
(10)質問、相談への対応及び連絡先	研究室電話番号026-238-4141 oshima@shinshu-u.ac.jp 適宜対応する。					
【教科書】	文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』					
【参考文献】	適宜指示する。					